



公益社団法人日本環境教育フォーラム

清里ミーティング2022

(通算36回目)

「全国の環境教育者と出会う！つながる！」

報告書

日 時：2022年12月9日（金）～11日（日）

会 場：9日～10日 Zoom（オンライン開催）

11日 大妻女子大学千代田キャンパス（対面開催）※Zoomでも配信

主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

後 援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人 国立青少年教育振興機構、

ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、

一般社団法人日本環境教育学会、

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

協 賛：株式会社サンエー印刷

SOMPOホールディングス

公益財団法人SOMPO環境財団

J-POWER（電源開発株式会社）

日能研

株式会社みくに出版

参加者数：297名

目次

開催趣意	1
スケジュール	2
開会式	3
基調講演「空や雲を楽しみながら、地球の将来を考えよう」	5
トークセッション	7
トークセッション1「環境教育×STEAM 部会 成果報告会」	7
トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」	7
参加者企画ワークショップ	8
JEEF 設立 30 周年記念講演会	13
その他の企画	16
清里ミーティングこれまでの実績	17

開催趣意

清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートした。毎年、自然学校等の環境団体、企業、行政、教育機関等から約200名の関係者が参加し、環境教育に関心のある人たちの交流の場として30年以上続いてきた。環境分野以外の多様なステークホルダーとの協働も目指し、広く「持続可能な社会に貢献するひとづくりに携わる人たちの学び合いの場」として、多様性とパートナーシップによって環境問題・社会課題解決のヒントを探る。2018年には、「平成30年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構）にて環境大臣賞を受賞した。

2020年からは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集まる場を清里からオンラインに移した。遠方・海外、仕事・家庭等の事情で宿泊型では今まで参加できなかった方もオンライン化によって参加が可能となり、参加者数も300名程度に増え、より多様な参加者が清里ミーティングに集い、意見交換等が行えるようになった。

■ 清里ミーティングの目的

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワーメントする。
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する。
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向け、環境教育だけではなく、他分野とのパートナーシップがより重要となっている。清里ミーティングも環境教育以外のより広い分野からの参加者を募り、新しいコラボレーションが生まれることをねらっている。お互いの活動を理解し、認め合い、共に考え、力を合わせていける場の基盤づくりを目的としている。

■ 今年の特徴

新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020年からオンライン開催を継続していたが、2022年は1～2日目はオンライン（Zoom）、3日目は都内会場での対面+オンライン配信のハイブリッド形式で実施した。基調講演による最新情報やトレンドの話題提供、ワークショップによる参加者同士の情報交換や交流を通して、環境教育の質の向上を目指し、参加者同士の学びの場となることを目指した。

また、1987年にはじまった「清里ミーティング」の事務局を母体として、JEEFが設立してから2022年で30周年を迎えた。30年間の活動をふりかえるとともに、改めて自然体験の必要性を社会へ訴える機会として、清里ミーティング開催中に記念講演会も行った。

スケジュール

日 時： 2022年12月9日（金）～11日（日）

会 場： 9日～10日 Zoom（オンライン開催）

11日 大妻女子大学千代田キャンパス（対面開催）※Zoomでも配信

参加費：一般 5,000円／会員 2,000円／学生 無料 ※参加お申込みの方には後日、録画も配信

主 催： 公益社団法人日本環境教育フォーラム

■ タイムスケジュール

	12/9（金）	12/10（土）	12/11（日）
10:00			
11:00			
12:00			
13:00	13:00-13:30開会式 13:30-15:00 基調講演	10:30-21:30 参加者企画 ワークショップ	
14:00			14:00-16:00 JEEF30周年記念 講演会
15:00			
16:00	15:30-19:00 トークセッション		
17:00			
18:00			
19:00			
20:00	20:00-21:30 情報交換会		
21:00			
22:00			

■ オンラインプロフィール集

今年度も「Proff（オンラインプロフィール作成サービス）」を用いて参加者のプロフィール集を作成した。



加藤超大
日本環境教育フォーラム事務局長

〒1089/9/29
東京都中央区西日暮芝5-38-5日暮研セ
ビル7F
03-5834-2897
kato_tatsuhiro@jeef.or.jp
<http://www.jeef.or.jp>

ABOUT ME

日本環境教育フォーラム（JEEF）事務局長の加藤超大です。

昨年11月に事務局長に就任してから1年を迎えました。新型コロナウイルスの影響もありバタバタしていますが、皆さまの支えもあり無事に1年目を終えることができました。（今は事務局長2年生です！）ありがとうございます。

今年の清涼ミーティングは初めてのオンラインに挑戦しています。オンラインであっても参加者の皆さまが互いに学び合える場を提供してまいります！ご期待ください！！

【プロフィール】
大学卒業後に青年海外協力隊（職種：環境教育）として中東・ヨルダンへの派遣を経て、2014年よりJEEFに。入社後はバングラデシュやカンボジアでの海外事業に関わり、2019年11月より事務局長に就任しました。

tatsuhiro.kato.7/

Proff ページサンプル

開会式

司 会 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 事務局長 加藤超大
主催者挨拶 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 理事長 阿部 治

JEEF 事務局長の加藤から参加者の皆様へ、清里ミーティングの概要と開催スケジュールを紹介した。



ワークショップ以外にも素敵な企画をご用意しています。学ぶ、感じる、共有する、ふりかえる、つながる、計画する—ご自身に合った方法で、今後のエネルギーとなるようなヒトやコトと出会ってください。どなたでも参加いただけます。

■ トークセッション1「環境教育×STEAM部会 成果報告会」 12/9 (金) 15:30-17:00

昨年の清里ミーティングからスタートした、環境教育の中にSTEAM (※) の要素を組み込むことで、子どもたちの思考力や発想力を育てる新たなプログラムを開発する試みの成果を共有します。

※Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Art (芸術)、Mathematics (数学) という5つの頭文字からなる、理数教育に創造性教育を加えた領域横断的な教育理念。

ファシリテーター：鴨川光 (JEEF/ジャパンGEMSセンター 主任研究員)



■ トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」 12/9 (金) 17:30-19:00 (予定)

SDGsのキーワードでもある「誰ひとり取り残さない」を環境教育の領域で実現していくために何が必要か。実際の活動事例や、JEEFの取り組みを紹介しつつ、多様性とともにある環境教育のポイントを探ります。

<ゲスト>



また、本年6月に就任した阿部理事長より、主催者挨拶を行った。

<阿部理事長挨拶 (全文)>

清里ミーティング2022にご参加頂き、ありがとうございます。私は本年6月に川嶋直さんの後を引き継ぎ、JEEFの理事長に就任しました。JEEFを代表し、開会の挨拶をさせていただきます。

JEEFは今年度、設立30周年を迎えました。その前身である1987年開催の清里フォーラムからですと、35周年になります。清里ミーティングは1987年以来、清里のキープ協会を会場に開催してきました。私も1987年以来、ほぼ毎年参加してきました。清里で自然や環境教育はもちろん、持続可能な社会などさまざまなことについて夜を徹して話し合ったこと、みんなで野外に寝ころび流れ星を見て語り合ったことなどが、昨日の出来事のように思い出されます。清里ミーティングでの出会いは私にとって、一生の財産です。おそらくほとんどの参加者の皆様も、同様の思いを抱いていると思います。しかし残念ながら、新型コロナウイルスによって清里での対面の開催が叶わず、この3年間はオンラインで実施してきました。何とか対面の場を持ちたいと、今年度は、3日目は対面とオンラインのハイブリット開催といたしました。コロナ禍で始まったオンライン開催は、移動せずに全国どこからでも参加できるという大きなメリットがあり、従来の清里ミーティング参加者の幅を広げることができました。しかし対面でなければできない交流、感動があることも事実です。コロナの状況次第ですが、来年度は清里の現地開催も追求したいと思っています。

さて、ご存知のように環境問題をめぐる世界の状況は危機的状況となっています。JEEFが設立された30

年前も、地球サミットが開催され、地球環境の危機が叫ばれていましたが、今日の危機は比べようもないくらいに切迫したものとなっています。しかし持続可能な社会の変革を目指す脱炭素社会や SDGs など、30 年前には考えられなかった、いわば人類の希望ともいうべき取り組みが始まりました。残念ながらロシアによる時代錯誤的なウクライナ侵攻がこれらの動きを台無しにし、歴史を逆戻りさせてしまっていることに、怒りを禁じ得ません。いずれにしてもこれらの状況は、健全な自然環境を基盤に、平和でかつ社会的公正が実現している持続可能な社会の担い手づくりの役割、それを担う環境教育の有用性をより明らかにしたのではないかと思います。私自身は理事長就任を機に、「誰一人取り残さない環境教育」を JEEF の主要な事業の一つとして位置づけ、子どもから大人まですべての人々がその置かれている状況を問わず、自然体験に触れる機会を保障する社会づくりに取り組んでいきます。皆様とぜひ一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。本ミーティングには、JEEF に入会されていない方もご参加くださっています。この機会にぜひ、ご入会いただき、「人を育てる、世界を変える」のスローガンを掲げる JEEF の活動をともに推進してくださることを、心から願っています。なお、会員の皆様には本日、機関誌「地球のこども」を送付いたしましたので、ご覧ください。

最後に、この 3 日間が皆様にとって学びと交流の場になることを願って、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



基調講演

基調講演「空や雲を楽しみながら、地球の将来を考えよう」

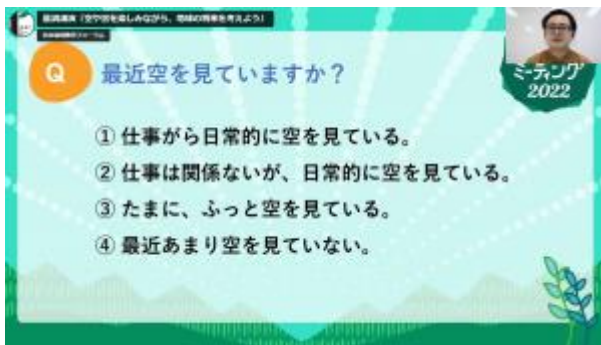
自然体験の時はもちろん、日常の生活でも日々気になる「お天気」をテーマに、気象予報士の佐々木恭子さん（合同会社てんコロ.代表）にお話をいただいた。講演はウェビナー形式で行い、参加者はチャット機能を使って質問や感想を共有した。

ファシリテーター：

鴨川 光 （公益社団法人日本環境教育フォーラム／ジャパン GEMS センター）

ゲストスピーカー：

佐々木 恭子さん（気象予報士／合同会社てんコロ.代表）



空や雲は当たり前のように私たちのとりにあって、身近な存在であるにも関わらず、知らないことが多くある。野外活動時の天気予報と空や雲の見方のポイントなど、楽しみながら学ぶ時間となった。

刻々と変化する空の様子や雲の成り立ちなど、身近な空模様を楽しむところから始まり、空や雲・生物の行動から天気を予測する「観天望気」、災害予測と防災、気候変動の影響と話題は広がり、防災のためにも普段から空を楽しんで見上げることが大切であると語られた。

<講演内で紹介された資料>

・気候変動アクションガイド

https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2021/11/TBWA-HAKUHODO_climate-change-action-guide.pdf

・気象庁データバンク

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/db/database_temp.html

・キキクル

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#lat:34.034453/lon:134.978027/zoom:5/colordepth:normal/elements:land>

・天気の図鑑

<https://sugosugiru.kadokawa.co.jp/tenki/>

<チャットより一部抜粋>

・先ほどの「ブルーモーメント」私も好きな瞬間です^^名前もステキですね

・入道雲作りたいです！

- ・『普段から親しむ』というのはとても大切ですね。
- ・ドカ雪（一度にたくさんの雪が降る）も大雨が降るのと同じ理由でしょうか。最近の雪が多い年は雪の日が多いのでは無く、一日に降る雪が多いように感じます。
- ・宍道湖は天気がいいときれいな青、曇りだと濁った緑になります。
- ・観天望気、さらに実践します！
- ・佐々木さん、同い年です！この後の40年で同じくらい気温が上がったらと思うとぞっとします。。
- ・今まで雲は名前など難しく感じていましたが、とても分かりやすく、勉強になりました。もっと空を見ようと思います。
- ・身近な雲から地球という大きな自然が感じられてよいですね！実験もしてみようと思います！こちら北海道も晴れています。
- ・楽しいお話をありがとうございました。雨粒のスロー再生してみます。

トークセッション

トークセッション1「環境教育×STEAM 部会 成果報告会」

昨年の清里ミーティングからスタートした、環境教育の中に STEAM (※) の要素を組み込むことで、子どもたちの思考力や発想力を育てる新たなプログラムを開発する試みの成果を共有した。

※Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Art (芸術)、Mathematics (数学) という5つの頭文字からなる、理数教育に創造性教育を加えた領域横断的な教育理念。



ゲスト：片岡 里美さん (西武造園株式会社)

加藤 有美恵 (JEEF)

ファシリテーター：鴨川 光 (JEEF/ジャパン GEMS センター 主任研究員)

トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」

SDGs のキーワードでもある「誰ひとり取り残さない」を環境教育の領域で実現していくために何が必要か。実際の活動事例や、JEEF の取り組みを紹介しつつ、多様性とともにある環境教育のポイントを探った。



ゲスト：栗林 知絵子さん (認定 NPO 法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク)

ファシリテーター：阿部 治 (JEEF 理事長)

参加者企画ワークショップ

参加者自身が企画・実施者となる「参加者企画ワークショップ」と、JEEFが企画・実施した「JEEF企画ワークショップ」を計19本、オンラインで開催した。実施者でない参加者は自身の興味・目的に合わせて参加プログラムを選択し、各ワークショップで参加者同士の活発な意見交換が行われた。

実施されたワークショップは以下の通り。(実施者敬称略)

12月10日(日)

◆子どもの可能性を伸ばす学校教育

軽井沢風越学園、きのくに子どもの村学園、自由の森学園の3校から子どもたちの可能性を伸ばす上で大切にしている教育手法や価値観、また、それらを公教育の中でどのように落とし込んで実施しているのかについて話題提供いただくとともに、これからの教育について考えます。

定員：なし

対象：大人のみ



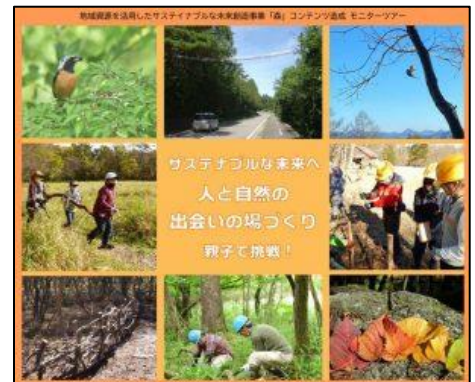
◆サステイナブルな観光地域への歩みをすすめていくには?～『サステイナブルな未来へ～人と自然の出会いの場づくり 親子で挑戦!～』報告を糸口に～

SDGsが一般化し、「地域で実際どう実践してるの?」という社会の流れ。八ヶ岳では、DMOが観光庁補助事業で山・森・里山・農場の4つのプログラム開発を行い、キープ協会は「森」コンテンツ担当。みなさん情報交換しましょう!

実施者：鳥屋尾健、坂川実基(公益財団法人キープ協会 環境教育事業部)

定員：なし

対象：大人のみ



◆生物多様性ミライ会議～わかものど環境保全をつなぐには～

「わかものに生物多様性に関心を持ってもらうには?」「わかものが環境保全を仕事にするには?」生物多様性の最前線に立つ「わかもの」、そしてフィールドから環境保全へのわかものの参画を推進する「おとな」と一緒に考えてみませんか。

実施者：小林海瑠、稲場一華、永末るな、小林映里奈(生物多様性わかものネットワーク)、野口浩二(里山生物多様性プロジェクト)

定員：15名

対象：子ども参加可(16歳以上)



◆心地よいオンライン空間をつくるコツ

コロナ禍で手に入れた「オンライン」という選択肢。きっとコロナ禍が落ち着いたとしても活用されていくでしょう。オンライン講座やワークショップ自体の品質をより高める「心地よいオンライン空間を生み出すコツ」について学びます。

実施者：芦沢壮一（スキルノート）

定員：15名

対象：大人のみ



◆「世界がもし 100 人の村だったら」から話し・考える SDGs

世界には約 77 億もの人がいますが、それを 100 人に縮めてみたらどうなるでしょう？メールメッセージで広がった「世界がもし 100 人の村だったら」を参加者と一緒に読みながら、背景や SDGs とのつながりについて話し合います。

実施者：八木亜紀子（NPO 法人開発教育協会（DEAR））

定員：30名

対象：子ども参加も可（小学 5 年生以上）



◆渡り鳥に気づき、自然を知り、文明を考える。

東京港野鳥公園からの中継です。前半は、お天気が良ければ屋外で東淡水池の様子を紹介し、その後ネイチャーセンターから見られる水辺の野鳥の様子をご覧ください。東京湾の埋め立て地に自然が再生された東京港野鳥公園の歴史や自然についても紹介し、後半は野鳥やバードウォッチングをテーマにした講義となります。（写真は昨年の様子）

実施者：安西英明（JEEF 理事／公益財団法人日本野鳥の会）、尾鷲凌子（茨城大学／CSO ラーニング生）、京極徹（JEEF）

定員：なし

対象：大人のみ



◆中国の皆さんと IP4 コマまんが作ってみた！日本の皆さんも作ってみよう♪(事例紹介&作成ワークショップ)

4コマまんがという表現手段で、あなたのインタープリテーションを描いてみましょう。伝えたいこと、見せ場など起承転結に沿う「まんが脳になる」ことで、作画のテクニックだけでなく、思考の整理・インタープリテーションの技術向上にもつながります。

実施者：鈴木律子（ぐらいいん屋）、川村悦子（やまねこ works）、朱恵雯（日中市民社会ネットワーク）

定員：なし

対象：大人のみ



◆いのちをつなぐ～国産ジビエの取り組み

里山と人間、そしてそこに暮らす動物たちのバランスを整えるために頂いた命に感謝し、販売を通して環境問題の周知と解決を同時に行うジビエ。警備会社と自然学校という異色の背景を持つ 2 社の取り組みから、国産ジビエの可能性に迫ります。

実施者：竹内崇（ALSOK 千葉）、浅子智昭（ホールアース自然学校）

定員：なし

対象：大人のみ



◆遊びで育つ放課後の時間！自然学校が行う学童保育の紹介！

長野県の泰阜村にある自然学校が、村の委託で行っている「放課後児童クラブいってきました」の事業を紹介します。地域の自然や文化を織り交ぜ、こどもたちとやりたいことを話し合いながら活動しています。開設して8年目。現在はこどものやりたい様々な遊びを通じて自律した人を育てることを目指しています。そんな学童の苦労話や、実際の活動の様子をお伝えします。

実施者：堀切大輔、清水綾乃、村上由紀（NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター）

定員：なし

対象：大人のみ



◆美しい棚田を未来につなぐ 16年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう～出版社からの「棚田くんが行く」の秘話と地に足のついた生き方を棚田と体から考えよう！～

棚田はお米を育て、生き物も多く、洪水調整につながる素晴らしい環境教育の場。その場で16年間実践してきた内容をジャパンアウトドアリーダーズアワードで全国81名の中から10名のファイナリストに選んでいた永菅裕一（棚田くん）とポプラ社の大久保徹が話し、交流します。そして、増田泰子が地に足のついた体の使い方を実践します。

実施者：永菅裕一（NPO 法人 棚田LOVER's）、大久保徹（ポプラ社）、増田泰子（ととのう朝活主宰、BeAct 代表）

定員：なし、対象：こども参加可（年齢制限なし）



◆見えない世界を見てみよう！双眼鏡の世界「Seeing beyond」

目で見える世界はどんな世界があるのでしょうか？これまでの体験を共有し、カールツァイツ社のレンズの開発物語を聞きながら、双眼鏡というツールを使うことで、その世界がどのように変化していくのかを疑似体験していきます。まだ見たことのない世界があるか探してみましょ！

実施者：手塚幸恵（小笠原レオニド株式会社）、高野壽美（カールツァイツ株式会社）

定員：なし

対象：大人のみ



◆新しい感性で環境問題に挑む

老舗アパレル企業の 4 代目でありながら大量生産・大量廃棄というシステムに疑問を持ち、カポックという木の実からサステナブルなファッションブランドを立ち上げた深井さんと、「可愛い」で地球を守る」を掲げて海洋プラスチックをアップサイクルしたジュエリーブランドを展開する山崎さんのチャレンジを紹介します。

実施者：深井喜翔（カポックジャパン株式会社）、山崎姫菜子（sobolon）

定員：なし

対象：大人のみ



◆VR と、「おせち」「江戸の町並み」「大っきな鏡餅のおきあがりこぼし」などのペーパークラフトとで、自然への敬意や異文化理解、資源・サーキュラー・エコノミー（CircularEconomy）・RRRDR を考えよう

VR（バーチャルリアリティ）やペーパークラフト（日本語版・英語版）を通じて、大切にしている生活や食糧生産などを、いろんな切り口で考えよう。

実施者：海老原誠治（いただきます.info）、大塩美奈子（三信化工株式会社）、松橋淳一（一般社団法人はしわたし研究所）

定員：30名

対象：子ども参加可（6歳以上）



◆自然や馬の力に頼ったインクルーシブな場づくりを考える～ホースセラピーの現場をヒントに差別のない社会をつくる

自然や馬は、発達に凸凹のある子たちも共に育つ場として力を貸してくれます。毎月延 200 名の子ども達が利用する三陸駒舎のホースセラピーの現場での実践をヒントに、どうしたら多様な子どもの個性が生かされ合うインクルーシブな場が出来るのか共に考えましょう！

実施者：黍原豊（一般社団法人三陸駒舎）

定員：15名

対象：大人のみ



◆臨床アートへようこそ「いろいろな線と色で遊ぼう」

はじめまして、心を癒す絵画セラピー専門家の花本直子です。あまり耳馴染みのない臨床アートですが、絵心がなくても誰でも楽しみながら 90 分程で作品が出来上がる不思議なアートです。アートに間違いはありませんし、その人の【今の気持ち】は一瞬で変わるものです。色、形、線をすべて自分で決めていいのです。臨床アートは何度でもやり直せるプロセスが用意されていますので安心して迷ってください。（笑）

実施者：花本直子、真鍋美智代

定員：6～8名

対象：子ども参加可（4歳以上）



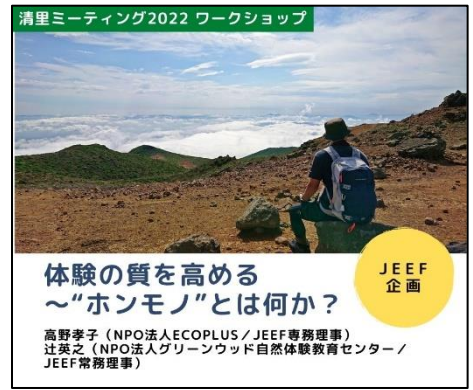
◆体験の質を高める～“ホンモノ”とは何か？

長年体験活動の現場で子どもたちと過ごしてきた 2 名のプロフェッショナルから、子どもたちの学びや気付きを大きくする体験のエッセンスや、関わり方の工夫について共有します。

実施者：高野孝子(NPO 法人 ECOPLUS/JEEF 専務理事)、辻英之(NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター/JEEF 常務理事)

定 員：なし

対 象：大人のみ



◆ポスト SDGs を見すえて、組織が組んで事業化を考える作戦会議

環境教育、ESD、災害教育、自然学校、サステナブル・ツーリズムなど、それぞれ専門力とネットワークを持つ ESD-J とエコセンと RQ と JEEF で、協働して事業化をはかれないかを検討中。その作戦会議を公開 WS で。

実施者：森高一(NPO 法人日本エコツーリズムセンター)、小玉敏也(NPO 法人持続可能な開発のための 教育推進会議)、加藤超大 (JEEF)

定 員：20 名

対 象：大人のみ



◆「学びの役割」再考・研究部会～私達は社会を変える環境教育が出来ているか？

「環境教育→意識変容→行動変容→その結果として持続可能な社会への変容が起きる」昨年の清里ミーティング後、この仮説を継続検証する研究部会が発足しました。今回はこの研究部会でこの 1 年間考えてきたことを数名の方たちの視点を通して発表します。そして、改めて学びの役割のこれからについて問いをなげかけます。(本テーマに関心のある方はどなたでもご参加できます)

実施者：川嶋直 (JEEF)、飯島邦子 (株式会社プロセスラボラトリー)

定 員：なし

対 象：大人のみ



◆自然体験・環境教育のフェスティバル「清里オーガニックキャンプ 2023」作戦会議

今年清里で、持続的な社会を描くための新たな場づくりを始めました。大切にしたのはコロナ禍で機会が乏しくなった体験や交流です。このワークショップでは来春開催予定の「清里オーガニックキャンプ 2023」を見据え、今年をふりかえり、みなさんと次回の展望を描きます。このイベントの学生ボランティアも募集中！自然体験、環境教育の実践者となることができるチャンスです。

実施者：村上友和 (清里オーガニックキャンプ 2023 実行委員会/株式会社自然教育研究センター)

定 員：なし、対 象：大人のみ



JEEF 設立 30 周年記念講演会

1987 年にはじまった「清里ミーティング」の事務局を母体として、1992 年に JEEF が設立。2022 年で 30 周年を迎えたことに伴い、30 年間の活動をふりかえるとともに、改めて自然体験の必要性を社会に訴える機会として、会期 3 日目に記念講演会を行った。

ゲストは近著『子どもが心配 人として大事な三つの力』で子どもの外遊びの減少と、都市化が進んだ現代の子どもが幸せになる教育について指摘している解剖学者・養老孟司氏と、森のようちえんの現場を長年勤め、自然に引き出された子どもたちの表情とその効果を魅力的な写真で発信してきた写真家・小西貴士氏。2 名のゲストの目から見た現代の子どもたちの現状について語っていただいた。



協力：青森大学ボランティアの皆さん



理事長より始まりの挨拶

講演会は会場（大妻女子大学）と、その様子を Zoom で配信するハイブリットでの配信で実施した。会場には約 40 名が集まった。



会場の様子



小西氏による事例紹介



養老氏による講演

ゲスト2人からお話をいただいた後、阿部理事長のファシリテートで対談『自然と子どもの関係性～成長に必要な子どもの体験～』を行った。会場やオンライン視聴者から質問も受け付けた。



対談の様子

ゲストのこども時代の自然体験の思い出、災害を含めた自然と社会の付き合い方、これからの社会づくりについてなどが議論された。

<対談の一部抜粋>

- ・子どもの心を動かすことはできるが、日常の中で継続させることに難しさを感じている。(参加者より)
- ・幼ければ幼いほど、動ける範囲が小さければ小さいほど、周囲から受ける影響が大きい。そのうちに大人が環境をつくってあげることが大切。(小西氏)
- ・日常で自然に付き合わざるを得ない状況を社会的に組み込まないと、ほとんどの人は関心を持たないと思う。(養老氏)
- ・子どものことを考えすぎてデザインしている場はもういないのでは、と思っている。生まれてきた世界(地球)を、子どもたちが自分の足で歩いて行ける場が必要。(小西氏)
- ・デザインされた社会、合理的な社会、お金を主体にした社会はもう限界。デザインし直す必要がある。子どもたち自身が自然との関わりの中で暮らせる社会はどう追求できるか。(阿部氏)
- ・子どもたちを曲げているのは大人の価値観で、子どもがハッピーである世界を考えればいい。小西さんのよう

にそれをわかっている大人がいて、ただ子どもらしく走り回ることを許されること。将来どうなる、ばかりでは暗い気持ちになる。(養老氏)

- ・体を通して理解することは大事と思いつつ、生活の中にどう組みこんだらいいか。(参加者より)
- ・自分の身の回りのものから始まって、生理的・情緒的な経験が複合的に作用してできるが増えていくものだと思う。モノで整える環境観ではなく、伴走するのは人が大事。ループが使える年になったから道具を渡す、ではなく、子どもが何かを見つけて、見たいと思った今その時に、サッとループを取り出せる大人がいることが大事。(小西氏)
- ・子どもを「不完全な大人」として見る大人がいると、完全な大人にしようと干渉しすぎる。最近読んだ「土を育てる」というアメリカの書籍では、化学肥料も殺虫剤も使わず、それで近隣の農家と同じくらい育てている農家の話が書かれている。放っておいたらそのまま育つのに、なぜ人類は手を加えたがるのか。楽観していいところと、手を付けた方がいいところの区別がつかない人が多いのだと思う。子どもも同じ。(養老氏)
- ・目の前で起きたこと、体験したことから気づきを得て、それを踏まえて本を読むなどして知識と世界が広がるのだと思う。(小西氏)

最後に会場から感想や今後の自然体験、環境教育への期待等のコメントをいただき、閉会した。



環境省自然環境局長・奥田直久氏



(株)日能研代表・高木幹夫氏



(一社)日本環境教育学会会長・中村和彦氏



会場の集合写真

その他の企画

参加者同士の交流を促すために、下記を行った。

◆参加者専用ページ

参加者（申込者）だけがアクセスできるページを設置し、プロフィール集やワークショップ資料などの参加者同士が交流するための情報、参加資料や Zoom 利用のマニュアルなどをダウンロードできるほか、開催終了後には各プログラムの録画アーカイブを公開した。

◆情報交換会 12/9（金）20:00 - 21:00

オンラインで日本中の環境教育者をつながる交流の場。話したいテーマごとに分かれた小部屋を自由に行き来しながら、さまざまな話題に触れる。

さらに、自然学校や環境教育施設に就職したい（募集したい）、つながりたいという人向けのマッチングルームも開設。こんな人とつながりたいとリクエストをいただければスタッフがつなぐ。

食べながら、飲みながら、耳だけ参加、途中入退室 OK、いろいろな形でご参加いただける場とした。

The screenshot shows the '参加者専用ページ' (Participant Portal) for the '清里 ミティング 2022' (Kiyosato Meeting 2022). The page features a colorful header with the event title and dates (December 9-11). Below the header, there are navigation links and a main content area with several sections:

- 参加者専用ページ**: A notice about account sharing and a link to the 2023 application page.
- 参加者用資料**: Links to download participant materials, including the online profile creation guide, Zoom usage guide, and workshop materials.
- ワークショップ資料**: Information about workshop materials, including a notice about the availability of materials and links to workshop materials for various topics like 'SDGs for 100 people' and 'SDGs for 100 people'.
- ワンクリックZoom ID**: A section for one-click Zoom IDs, with a note that the page is for reference only and that the actual ID is provided in the materials.
- ◆開会式、基調講演、JEEF30周年記念講演会**: Details for the opening ceremony, keynote speeches, and the 30th anniversary commemorative lecture, including dates, times, and meeting IDs for each session.
- ◆JEEF企画**: Details for JEEF events, including a discussion session on 'SDGs for 100 people' and a discussion session on 'SDGs for 100 people'.
- ◆参加者企画ワークショップ**: Details for participant workshop sessions, including dates, times, and meeting IDs for each session.

At the bottom of the page, there is a 'CONTACT' section with contact information for JEEF, including address, phone, fax, and email. Below that is a 'SPONSORS' section with logos for SUN-A, SOMPO, POWER, and MIKUNI.

清里ミーティングこれまでの実績

第1回清里フォーラム

- 日時：1987年9月28日(月)～29日(火)
- 参加人数：93人
- 主催：清里フォーラム実行委員会
- 【分科会】①環境教育について(考え方とその論理)
②自然観察の中に今後とこんでいきたいもの
③指導者とボランティアの養成を今後どうするか
④施設運営とコーディネーターの在り方について
⑤自然観察の有料化について
⑥清里フォーラムの将来性・方向性について
- ゲスト：加藤幸子(小池しげんの子)

第2回清里環境教育フォーラム

- 日時：1988年11月13日(日)～15日(火)
- 参加人数：151人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/山梨県
- 【分科会】
前半 ①学校と環境教育 後半 ①地域・開発と環境教育
②地域社会と環境教育 ②施設と環境教育
③施設と環境教育 ③人づくりと環境教育
④自然観察と環境教育 ④市民・行政・企業・学校の協力
⑤企業と環境教育 ⑤環境教育の目的と方法
⑥学校と環境教育
⑦企業と環境教育
- ゲスト：ロバート・ピナウィーズ(元ヨセミテ国立公園管理事務所長)

第3回清里環境教育フォーラム

- 日時：1989年11月12日(日)～14日(火)
- 参加人数：168人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①小中高における環境教育カリキュラム
②若い世代に楽しいプログラムとは
③環境教育をうまく経営していくためには
④環境教育の場でボランティアが活躍できるためには
⑤環境教育で村おこしができるか
⑥大学における環境教育
- ゲスト：ジェームス・サノ(元マリン・ディスカバリーズ専務理事)

第4回清里環境教育フォーラム

- 日時：1990年11月18日(日)～20日(火)
- 参加人数：163人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校教育 ②事業化
③プログラム ④人づくり
⑤施設 ⑥地域開発・村おこし
- ※この年4月より上記6つの研究部会が発足。
- ゲスト：ジョセフ・コーネル(ネイチャーゲーム考案者)

第5回清里環境教育フォーラム

- 日時：1991年11月17日(日)～19日(火)
- 参加人数：187人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校 ②事業化 ③プログラム
④人づくり ⑤施設 ⑥地域社会
- ゲスト：スティーブン・メドレー(ヨセミテ・アソシエーション会長)

- *1992年9月 任意団体 日本環境教育フォーラム発足
- *1992年7月 「日本型環境教育の提案」発刊

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '92(通算6回)

- 日時：1992年9月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：132人
- 主催：日本環境教育フォーラム設立準備会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【紹介WS】①エコツアー報告・ヨセミテ自然学校
②New School of Conservationにおける環境教育
③ペンギンリザーブ活動報告
④国際理解教育・資料情報センター活動紹介
⑤フィールドミュージアムごっこ
⑥環境教育国際セミナーに参加して
⑦成城学園における「散歩」遊び
- 【体験WS】①さあ、みんなでやってみよう！開発教育シミュレーション
②エコロジーキャンプつまみぐいハイク
③ネイチャーゲーム入門
④もしフィールドでけがをしたら
⑤PLTプログラムの紹介
- 【分科会】①学校での環境教育
②地域に根ざした環境教育
③エコツーリズムの可能性とその問題点
④環境教育のプログラム教材開発
⑤指導者養成について
⑥エコマネジメントのしかた

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '93(通算7回)

- 日時：1993年11月14日(日)～16日(火)
- 参加人数：154人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②死の準備教育の試み
③マインドクロッキー④パートナーシップへの挑戦
⑤究極の自然観察会 ⑥たずね鳥をさがせ
- 【分科会】①プログラム ②施設 ③学校
④人づくり ⑤企業 ⑥地域・自治体
⑦エコツーリズム ⑧海外の国立公園情報
- ゲスト：アン・ロベッタ(ストーリーテラー)

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '94(通算8回)

- 日時：1994年11月27日(日)～29日(火)
- 参加人数：167人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②ファイブ・トリック
③森の宝箱をつくらう ④地球救出作戦
⑤枯れ木に花を咲かせましょう ⑥清里・冬物語
- 【分科会】①企業 ②エコツーリズム ③都市環境教育 ④ネイチャー
トレイル ⑤自然学校
⑥ネイチャーライティング ⑦フォーラム塾
- ゲスト：ジョン・エルダー(ミドルベリー大学英語学・環境学教授)

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '95(通算9回)

- 日時：1995年11月25日(土)～27日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校としての施設づくり②行政・自然学校
③自然学校の経営を考える ④自然学校の人材育成
⑤自然学校のプログラム
- 【WS】①写真で環境教育 ②あなたにとって出会いとは何ですか
③環境教育を企画・プロデュースする
④ソフトクリーム姉ちゃんをねええ！
⑤未知なる可能性を求めて
⑥キープ・フォレスト・スクール®のプログラム体験
⑦ネイチャーゲーム、アジアと環境教育
⑧独特な日本人に有効な環境教育戦略は？
⑨アース・アート ⑩メディアワークショップ

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '96(通算10回)

- 日時：1996年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：174人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校の「事業化」
②自然学校でのプログラム
③地域振興と環境教育
④環境保全活動がそのまま環境教育
⑤エコツーリズムの様々な可能性
⑥JEEFの法人化など今後の可能性
- 【ワークショップ】
①ネイチャーゲーム入門講座
②ネイチャーエクスポアリング
③清里での川の環境教育を考える
④「子供であそぼう」についての御紹介
⑤元気がでる自然観察
⑥環境教育の本質を考える
⑦環境教育を企画・プロデュースする
⑧清里で「海の環境教育」を考えよう
⑨自然をテーマにしたスライドショー
⑩自分への気づきとNGO
⑪清里インターネット通信社へようこそ
⑫森だくさんの自然体験
⑬まちを遊ぼう
⑭未知なる可能性を求めて
⑮エコビレッジを作ろう
⑯アクティビティの「バクリとアレンジャローカライズ」

※1997年4月 環境庁主管の法人格を取得、社団法人日本環境教育フォーラム設立

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '97(通算11回)

- 日時：1997年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：170人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①環境教育の指導者養成
②環境教育の新しいプログラム開発
③環境教育とまちづくり
④環境教育の情報の発掘と提供
⑤企業や行政とどのように組むのか？
⑥新しい交流集会のスタイル
- 【WS】①ネイチャーゲーム入門講座
②自然と心・心とひとのコミュニケーション
③環境教育の服装計画を考える
④出たところ勝負の自然観察会+人間ウォッチング
⑤環境教育を企画プロデュースする

- ⑥環境教育と経営と税金
- ⑦インタープリティブサインをつくらう
- ⑧ディープエコロジー・ミニワークショップ
- ⑨フィリピン流！演劇ワークショップのすすめ
- ⑩安全管理チェックリストをつくってみよう
- ⑪ネイチャーエクスプロアリングコースづくり
- ⑫水辺でさがすいろいろなつながり
- ⑬アクティビティと小道具
- ⑭キープの自然体験プログラム
- ⑮博物館をつくらう！
- ⑯野外における企業研修の実践とその可能性

- ③地球と私の合作づくり「1枚の葉」
- ④見て、聴いて、感じて・・・朝の森でネイチャーゲーム
- ⑤早朝ジョギングワークショップ
- ⑥キモチときもちをつないだら

- スライドプレゼンテーション
- JEEF 理事による3分トーク

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '98(通算12回)

- 日時：1998年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：176人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①公共事業における環境教育の役割
 - ②森林・里山における環境教育と地域振興
 - ③アメリカの環境教育プログラムの日本への導入
 - ④動物と関わる環境教育
 - ⑤日本型エコツーリズムについて
 - ⑥メディアと環境、その先にあるもの
- 【ワークショップ】
 - ①環境教育個人商店を考える
 - ②私のきもち、みんなのきもち、地球のきもち
 - ③21世紀のインタープリテーションを求めて
 - ④おきらく やまんばの部屋
 - ⑤プロジェクトワイルド「水生生物」に学ぶ
 - ⑥エコマネーのすすめ
 - ⑦もし参加者が野外でケガをしたら
 - ⑧ネイチャーエクスプロアリング
 - ⑨エコスピリチュアルワークの試み
 - ⑩アクティビティ大賞実施編・体験編
 - ⑪これまでの50年とこれからの50年
 - ⑫川を設計してみよう
 - ⑬「おもい」を「かたち」にはじめの一步
 - ⑭自然学校でめしが喰えるか

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '99(通算13回)

- テーマ：「学ぶ心・育つ力」
- 日時：1999年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①自然学校の運営を考える
 - ②「総合的な学習の時間」で学校と地域をつなぐ
 - ③都市型の生活環境をテーマにした遊び場づくり
 - ④森から見つめる川と海
 - ⑤エコツーリズム一歩前へ
 - ⑥見つめよう地域の里山、伝えよう里山の魅力
 - ⑦チルドレンを越える！
 - ⑧教育を考える
- 【早朝 WS】
 - ①カラスのきもち
 - ②朝のティータム
 - ③きもちとキモチをつないだら
 - ④五感で感じよう清里の自然
 - ⑤オカリナ・ハナリナ体験教室

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2000(通算14回)

- テーマ：「原点を見つめよう」
- 日時：2000年11月18日(土)～20日(月)
- 参加人数：171人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①野外での救急法を覚えよう
 - ②ネイチャーウォッチング in 清里
 - ③清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ④心と体で感じよう！ネイチャーゲームが案内する清里の自然
 - ⑤竹を使ったものづくり
 - ⑥羊の毛から糸つむぎ教室
 - ⑦自分という自然に出会う
 - ⑧Frog (カエル)
 - ⑨プロジェクト・アドベンチャー
- 【分科会】
 - ①自然体験活動における体験学習法
 - ②ゆったり楽しむ ノスタルジックワーク
 - ③虫を知る・入門
 - ④「センス・オブ・ワンダー」って何だ？
 - ⑤学校ピオトープの可能性
 - ⑥五感を使って楽しみながら自然探検
 - ⑦環境教育とスピリチュアリティ
 - ⑧企業・行政マン向け環境教育テキスト作り
 - ⑨自然学校のPR活動を考える
 - ⑩Out of Treasure Boxes
 - ⑪民話・ことわざから考える日本人と川の関係
 - ⑫エコツーリズムのビジネスネットワークを考える
 - ⑬表現を楽しもう！「シアターゲーム」
- 【早朝 WS】
 - ①野遊び手遊び発見隊
 - ②センス・オブ・ワンダーの体験

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2001(通算15回)

- 日時：2001年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／農林水産省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ②初心者歓迎！清里の自然をネイチャーゲームで楽しもう
 - ③秋の味覚を楽しもう！
 - ④「ほっ♪」となるたき火講座
 - ⑤身体感覚講座
 - ⑥The Bear (ひぐまの生き方、暮らし方)
 - ⑦プロジェクト・アドベンチャー
 - ⑧やまねミュージアムへ行こう
- 【分科会】
 - ①総合的な学習の教材として「拾ったもの(生きものに関連するもの)を活用する」
 - ②「いまだき」の子ども・「いまだき」の親 改造計画！
 - ③博覧会を環境教育という視点から評価する
 - ④ゆったり過ごすやまね流ネイチャーワーク
 - ⑤ワークショップという新しい学び方をめぐって
 - ⑥朝からイキナリ！若者で語ろう！の会
 - ⑦小さな子どもたちのための環境教育の「技」をさぐる
 - ⑧地域の昔話を中心にした環境教育
 - ⑨農業と林業を語ろう！農業者と林業者と語る環境教育
 - ⑩Environmental Education in English
 - ⑪北九州博、きら博で行われた環境教育プログラムはこれだ！
 - ⑫テロ・戦争に関してわかちあう
 - ⑬環境教育基礎講座
 - ⑭GEMSの体験プログラム
 - ⑮自然学校で働くこと
 - ⑯センス・オブ・ワンダー
 - ⑰ネイチャーエクスプロアリングライトの体験と総合的な学習の時間に活かせる活動事例
 - ⑱田んぼから生まれる日本型環境教育

- 【早朝 WS】
 - ①センス・オブ・ワンダーを楽しむ
 - ②早朝ジョギングワークショップ
 - スライドプレゼンテーション
 - 参加者による3分トーク「ここが変だよ！環境教育」

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2002(通算16回)

- テーマ：「胎動」
- 日時：2002年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：182人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 環境教育ミニレクチャー
- ヨハネスブルグ・サミット報告
- 参加者による3分トーク「環境教育 次のキーワードはこれ!!」
- 【ワークショップ】
 - ①地域通貨ってなんだろう？
 - ②折り紙を使った環境教育の試み(3)
 - ③幼稚園、保育園に環境教育を導入しよう
 - ④環境問題、エコロジカルアートからの試み
 - ⑤環境教育指導者と研究者、カリキュラム開発者のつながりを作ろう
 - ⑥体験主義を超えて・・・プロジェクト・ワイルドの世界
 - ⑦「自然の中で働く男性はオパチャン度が高い??」を証明したい!!
 - ⑧未来へ、世界へ、感動をどうつなぐのか
 - ⑨ひよこのキモチ
 - ⑩モアイは何を見たか
 - ⑪Environmental Education in English
 - ⑫持続可能な開発と環境教育
 - ⑬森の交響サイン計画づくり
 - ⑭サロンの語り場
- 【早朝 WS】
 - ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②清里ミニガイドツアーA
 - ③清里ミニガイドツアーB
 - ④モンゴル茶で朝を迎えよう
 - ⑤清里ミニガイドツアーC
- スライドプレゼンテーション

〔社〕日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2003(通算17回)

- キーワード：持続可能な開発のための教育
- 日時：2003年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：208人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 【全体会】
 - ・科学と環境教育をつなぐミーティング (前夜祭)の報告
 - ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律

- ・持続可能な開発のための教育 (ESD)
- ・スライド&トーク ーオロニーの日々

【WS&体験 PRG】

- ①ウラっていいとも
- ②社会教育ゲーム体験プログラム 投資意志決定ゲーム Chemical
- ③参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/AM
- ④総合学習への NPO 参画が期待されているけど、実現が難しいのは何故?
- ⑤エコ・ネイションゲーム
- ⑥忙しい!!! けど前向きに レベルアップシートを作ろう
- ⑦科学するココロを育てよう!
- ⑧参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/PM
- ⑨野生生物教育の現状と課題
- ⑩フォーラム企業部会をリセットして、今後の方向性を考えよう!
- ⑪「持続可能な人」づくり
- ⑫開府 400 年! 江戸町民の循環型社会から学ぶごみ減量大作戦
- ⑬どうなる? どうする? 日本環境教育フォーラムの未来
- ⑭子育てという環境
- ⑮地方発! 食農発信!
- ⑯環境教育の中の行政の役割を考えよう!

【早朝 WS】

- ①センス・オブ・ワンダー
 - ②清里ミニガイドツアー 富士山とせせらぎの小径コース
 - ③清里ミニガイドツアー めしの木コース
- スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2004(通算 18 回)

- キーワード:「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
- 日時:2004 年 11 月 13 日(土)~15 日(月)
- 参加人数:187 人
- 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- 【全体会】
- ・「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
 - ・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を考える

【WS&体験 PRG】

- ①エコツーリズムという生き方
- ②科学と環境教育
- ③地場産小麦でパンをつくらう!
- ④環境立国 エコ・ネイションゲーム
- ⑤「センス・オブ・ワンダーからグリーンコンシューマーへ」
~第 1 回清里「エコ商品コンテスト」~
- ⑥持続可能な地域づくりにつながるネイチャーゲーム体験
- ⑦体験学習への扉をひらく(午前の部)
- ⑧自然学校の動きと人材養成
- ⑨環境教育 in 国際協力 最前線!
- ⑩環境教育基礎講座「環境教育と自然体験」
- ⑪酵母を育てて、パンを作ろう!
~酵母が教えてくれる、命、自然とのつながり~
- ⑫石器時代に接近!モノはこうして作る ~シエラカップ~
- ⑬いのちを伝える自然体験
~自分流健康な生きかたを学ぶ~
- ⑭ボードゲーム型の環境教育プログラム
- ⑮体験学習への扉をひらく(午後の部)
- ⑯「1 億円のプロデュース」

【特別ワークショップ】

バーム油のはなし ~開発教育入門講座~

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②センス・オブ・ワンダーって、こんなに楽しく気持ちいい
 - ③清里ミニガイドツアー めしの木コース
- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 公開理事対談

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2005(通算 19 回)

- キーワード:「自然を舞台にした環境教育は、持続可能な社会づくりに具体的にどのよう役に立ってきたのか」
- 日時:2005 年 11 月 19 日(土)~21 日(月)
- 参加人数:221 人
- 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会:基調講演、5 分間スピーチ、パネルディスカッション
- 【WS&体験 PRG】
- ①環境教育基礎講座(午前の部)
 - ②自然学校って何だ?
 - ③学校教育と環境教育
 - ④ボードゲーム型の環境教育プログラム
 - ⑤ひとりひとりの感性で自然を感じよう
~ネイチャーゲームでのんびりぶらぶら~
 - ⑥セルフガイドシートを使用した、短時間、多人数対象プログラムの検証 ~セルフガイドシートの評価軸を作ろう~
 - ⑦科学ってなんだろうと考えながら皆で遊ぼう!
~低学年向けの GEMS プログラムを通して~
 - ⑧森林療法
 - ⑨プロジェクト WE T 体験会(午前の部)
 - ⑩環境教育基礎講座(午後の部)
 - ⑪自然学校の評価に向けた人材養成
 - ⑫小さな町村での自然学校の役割と可能性を探る
 - ⑬CSR と環境教育
 - ⑭おいしく食べ続けていける社会づくりは……
 - ⑮里山で音楽会

- ⑯樹木年輪から樹の声を聴く方法! ~過去からの環境の変化を迎える~
- ⑰プロジェクト WE T 体験会(午後の部)
- ⑱科学と環境教育 見直そう!あなたのインタープリテーション
~持続可能な社会づくりに自然科学知を活かすために

- 【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
②座禅&ヨガ
③清里ミニガイドツアー

- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 活動報告

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2006(通算 20 回)

- 日時:2006 年 11 月 18 日(土)~20 日(月)
- 参加人数:224 人
- 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会「日本の環境教育 この 20 年を振り返る」基調講演
- 学長鼎談「大学と環境教育」

【WS&体験 PRG】

- ①自然学校を事業化する
~20 年間に自然学校は何を獲得したのか~
- ②団体・組織におけるリスクマネジメントを考える
- ③あなたにとって食育ってなに?
- ④環境教育基礎講座
- ⑤新型の起業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
- ⑥学びとコミュニケーション
~GEMS プログラムの体験を通して~
- ⑦ESD の実践のポイントを探る
~みんなで話せばわかってくる!?~
- ⑧森林環境教育のすすめ ~木が好きになるプログラム~
- ⑨50 分プレゼンテーション(午前の部)
- ⑩企業と NPO との協働を考える戦略会議
- ⑪環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育)の関係性を探る
- ⑫環境教育と地域づくり
- ⑬環境教育仕事塾
- ⑭行政との連携を考える
- ⑮太鼓で太古に退行するぞ!
- ⑯木から樹を知る方法 ~木材を IP にいかす~
- ⑰セルフガイドで使えるしかけ展示のモデルをつくらう
- ⑱50 分プレゼンテーション(午後の部)
- ⑲自然への感動を生み出し、ライフスタイルの転換を促す
科学的知識の伝え方
- ⑳感性?科学?どっちのインタープリテーションショー

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②環境質問 ~答えのない問題~
 - ③ロシアからやってきた冬鳥を探してみませんか
 - ④清里ミニガイドツアー
 - ⑤清泉寮 朝さんぽ
- 環境ショート映像作品上映会
- 今後の戦略会議
- スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2007(通算 21 回)

- 日時:2007 年 11 月 17 日(土)~19 日(月)
- 参加人数:230 人
- 主催:社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管:財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力:山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援:環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 省庁プレゼンテーション
- 全体会:「生物多様性」基調講演
・第 3 次生物多様性国家戦略が目指すもの
・企業を取り組む生物多様性保全

【ワークショップ】

- ①「生物多様性」の見つけ方・伝え方
~自然体験活動を、生物多様性保護の教育活動に結びつける実際の方法~
 - ②行政との協働を考える
 - ③学ぶ環境としてのコミュニケーション ~GEMS とゴードンメソッド~
 - ④食育コミュニティをつくらう!
 - ⑤どこでもインタープリテーション! ~グッズ展開型 IP~
 - ⑥関西発!これからは日本的でいいこう!!
 - ⑦新型の企業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
スピード・ソリューション~自然学校版~
 - ⑧企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
 - ⑨ツリークライミング? 樹上の世界から学ぶこと
 - ⑩50 分プレゼンテーション
 - ⑪企業と環境 NPO との協働を進める戦略会議
 - ⑫ESD を広める人のための「ESD 入門講座」
 - ⑬環境教育基礎講座
 - ⑭生物多様性と環境教育について
 - ⑮科学と環境教育 自然体験からライフスタイルの転換へ
~ヤマネのプログラム体験を通じて~
 - ⑯メディアと自然学校
 - ⑰環境経営戦略ゲーム体験会
 - ⑱体験型展示物を評価しよう
 - ⑲エコツーリスト予備軍を探せ・つかめ・そして楽しめ!
 - ⑳障害者と共に楽しみ・学ぶ森林環境教育
 - ㉑やってみよう!!体感ツリークライミング⑯の世界
- 【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
②センス・オブ・ワンダーを楽しむ散歩
③清里ミニガイドツアー

- 今が旬の活動事例紹介
- スライドプレゼンテーション
- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2008(通算 22 回)

- 日時：2008年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会：「日本型環境教育の知恵 出版記念」～日本型環境教育とは～

【ワークショップ】

- ①科学と環境教育 ヤマネに学ぶエコロジカルな暮らし方
- ②生き物との共生について ～どんな共生があるのか～
- ③環境教育&ESDを”広げる×深める”政策を考えよう
- ④お互いの関係を作るコミュニケーションスキル
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ!
- ⑥エコとエネをつなぐ環境教育を考える
- ⑦森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑧環境教育を評価する「環境教育を棚卸しましょう」
- ⑨企業・NPO・学校の連携による環境教育を考える
- ⑩企業のための環境 NPO カタログ編集会議
- ⑪どうする!《限界集落》またの名は《上流社会》
- ⑫科学と環境教育総集編 科学と環境教育の関わりを定義する
- ⑬オオバコさもうで勝つ方法! 理学系研究室の自然体験
- ⑭川遊びのルールを広めよう
- ⑮日本型、日本的を考える ～日本の自然観という視点～
- ⑯地球環境カードゲーム マイアースを遊び尽くす
- ⑰障害者と共につむぐ環境教育の企画をつくる!
- ⑱森づくりのための戦略会議 ～行政・企業・NPOの協働～

【早朝 WS】

- ①砂鉄から鉄を作ろう! 柿崎の製鉄遺跡と自然のかかわり
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③清里の森で宝物発見
- ④ロシアから渡ってきた鳥と出会しましょう
- ⑤清里ミニガイドツアー

■環境教育プレゼンテーション

- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2009(通算 23 回)

- テーマ：「生物多様性」～環境教育の役割～
- 日時：2009年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：193人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会
 - ・基調講演「生物多様性」とは何か? 行政・企業・NGO から
 - ・事例紹介「生物多様性 私はいこう伝える」
 - ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座
- ②多様な生物の声を聴く～全生命の集いワークショップ～
- ③科学的な視点を活かした環境教育のプログラム作り
- ④企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ! Part2
- ⑥風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑦パーマカルチャーと環境教育
- ⑧幼児～小2に伝える生物多様性～生物多様性の形を探る～
- ⑨ビジターセンターを運営側から考え創る方法
- ⑩あなたにとって、生物多様性って何?
- ⑪生物多様性に焦点を当てたプロジェクト・ワイルド体験
- ⑫人間界に多様性は確保されているか
- ⑬日本の森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑭どうプログラム化しよう? 自然学校の「エネルギー」
- ⑮風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑯日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑰エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part2
- ⑱事故防止～注意を促すだけでいいの? 実践的予防安全法
- ⑲トランジションタウンとは何か? 都留での試み

(注) ⑦川遊びを始めよう! ～川の安全管理トレーニング～ は、都合により中止

【早朝 WS】

- ①生物多様性を映像で感じよう ～いっしょに生きる道～
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③ゼロからの火おこし術

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

※2010年6月 公益社団法人への移行認定を取得、公益社団法人日本環境教育フォーラムへ。

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2010(通算 24 回)

- テーマ：「いのちをつなぐ環境教育」
- 日時：2010年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会
 - ・基調講演「生物多様性条約第10回締約国会議の結果」
 - ・提案「生物多様性保全に果たす ESD の取組について」
 - ・提案「What is CEPA?」
 - ・取組紹介「環境省における ESD の取組について」
 - ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②日本の自然観から考える環境教育
- ③農的暮らしの学校
- ④自然感を耕す：人は心を、畑は土を、森はデザイン感を
- ⑤生物多様性まんだらカードゲーム体験会
- ⑥生物多様性条約の CEPA って何だ?
- ⑦企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑧エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part3
- ⑨「サステナビリティ」の基本はこれだ! ※
- ⑩これだけは知っておきたい! 生物多様性の基礎知識 ※
- ⑪生物多様性を普及する環境教育を目指して
- ⑫森を考える～木質バイオマスで100年先の森づくり～
- ⑬大学生のための食育プログラム
- ⑭命をいただく～ワトリと生きる～
- ⑮エコロジカル・シンキングゲーム
- ⑯「地球交響曲第7番」を見て、みんなで語ろう!
- ⑰イナカとこどもと日本の未来を考える
- ⑱企業の行なう自然体験活動と地域のつながりを考える

※の印は、主催者企画ワークショップ

(注) ⑩海外での環境教育(保全)活動を日本でどう伝えていくかは、都合により中止

【早朝 WS】

- ①バードコールハイク
- ②多様性を感じる観察会
- ③ゼロからの火おこし術
- ④朝飯前の手仕事
- ⑤朝日をあびつつ、ミルクティー飲んでごあいさつ
- ⑥生き方を学ぶ自然観察
- ⑦ノルディックウォークで早朝散歩
- ⑧映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ⑨みみをすませば～みんなでつくるいのちのものがたり～

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2011(通算 25 回)

- テーマ：「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」
- 日時：2011年11月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：188人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／経済産業省／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会 1
 - ・パネルディスカッション
 - 「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②企業・NPO・学校連携の環境教育を考える VOL. 2
- ③質的データ分析(QDA)という手法を学ぶ
- ④農的暮らしの自然学校
- ⑤森林療法にできること～森林セルフケアの可能性
- ⑥里山応援ネットワークを作ろう! ワークショップ
- ⑦0から仕事を作る～体験からチームを作る～
- ⑧『ワールドカフェ～自分発! 未来をかける価値観考～』
- ⑨修験道×環境教育～音色と歩き、体で精神性を感じる～
- ⑩震災救援組織(RQ 市民災害救援センター)の作り方 ※
- ⑪ESD×CSR：サステナビリティ教育指針を体感! ※
- ⑫やったらできた! エネルギー系企業と弱小 NPO のコラボ
- ⑬環境と文化・歴史・科学 etc. の複合…「旧暦」入門
- ⑭自然感を耕す 自分と里地里山里水が元気になるワーク
- ⑮生物多様性まんだらカードゲーム 今年小学生版
- ⑯PLT, WILD, WET の日本での可能性を考えよう
- ⑰日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱原発と環境教育～思ったことを話すことから始めよう～
- ⑲狩猟×環境教育～森と野生動物とのつきあい方～

※の印は主催者企画ワークショップ

【早朝 WS】

- ①ゼロから始める火起こし術
- ②森林療法のプログラム体験～樹林気功と運動療法
- ③冬鳥と出会って、いのちを感じる
- ④キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2012(通算 26 回)】

- テーマ：
「アジアの一員として、日本が今できること
～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- 日時：2012年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
「アジアの一員として、日本が今できること
～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
 - ・基調講演「リオ+20の概要と、NGOの成果と課題」
 - ・パネルディスカッション
- 「これからの日本の復興に環境教育がどういった役割を果たすのか」
- 【ワークショップ】
 - ①自然体験型環境教育入門講座
 - ②自然学校人事担当養成講座～ほしい人材を育てよう～
 - ③実施無し
 - ④ブーさんの森をデザインしよう！
 - ⑤考えよう！伝えよう！森の“いのち”の知恵と力
 - ⑥食から考える価値と暮らし
 - ⑦ねん土をつかって、超ミニアースオープンをつくろう！
 - ⑧農村と若者～そと者、若者による農山村の活性化～
 - ⑨一次産業と社会貢献事業～金の切れ目が本気のはじまり
 - ⑩「住み開き」を考えよう～身近に環境教育の場をつくる～
 - ⑪「都市と自然の融合～両方見て、初めて見える環境教育！～」
 - ⑫木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及をめざして～①
 - ⑬地域に根ざすということについて PBEへの招待
 - ⑭田舎で生きる！ライフモデル作りワークショップ
 - ⑮バトニアから学ぶ！持続可能な働き方と歩み方
 - ⑯環境教育×植物療法～自然の恵みをヒトの力に～
 - ⑰都市型環境教育 小学生向け紫外線プログラム体験
 - ⑱文学から見た農的暮らしの可能性
 - ⑲理想のシゴト？自然学校職員の本音と未来像
 - ⑳身近な環境の総合的“明察”…内なる“マイ暦”を作ろう！
 - ㉑農がXを助け、Xが農を助ける～半農半NPOでいこう～
 - ㉒エコとエネのつながりを考えるカードゲームワークショップ
 - ㉓森で教える国語・算数・理科・社会をつくっちゃおう！
 - ㉔木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及へ向けて～②
- 【早朝 WS】
 - ①科学と環境教育プログラム「静岡のなりたち」
 - ②みどりともだち！泥んこ遊び de 苔玉作り
 - ③キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー
- 環境教育プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2013(通算 27 回)】

- 日時：2013年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：204人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
 - ・キーンノートスピーチ
 - ・ワールドカフェ方式ディスカッション
 - ・「環境教育に関わる諸団体から最新のメッセージを聞く」
- 【ワークショップ】
 - ①自分の仕事を創る技術～IPの新しい可能性を考える～
 - ②地域に根ざした環境教育 Place-Based-Education
 - ③モミでご飯をたこう！～空き缶で「ミニかまど」づくり～
 - ④宇宙船地球号体感インプリ：20世紀天文少年の誘い
 - ⑤環境教育をカードゲームで考えてみよう～エネルギー編
 - ⑥「原発事故のはなし3」デモとディスカッション
 - ⑦質的データ分析(QDA)を体験してみよう
 - ⑧企業とNGOの幸せな関係をながく続ける秘訣
 - ⑨楽器を使ったプレゼンテーションを考えよう
 - ⑩知っておきたい基礎知識～命・自然・地球・宇宙～
 - ⑪日常の現場や暮らしに持ち帰る“運営と振り返り”
 - ⑫持続可能な地域のための必要なしくみを考えよう
 - ⑬継承したい日本の自然観～自然体という生き方～
 - ⑭事例から学ぶ BSD(持続発展教育)の基本と実践
 - ⑮ゲームで生態系を学ぼう！
 - ⑯ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術～
 - ⑰パフォーマンス評価の世界の潮流
 - ⑱15年のノウハウ伝授！身近な素材でプログラムづくり
 - ⑲小学校で環境教育やりたい人 集まれ！
 - ⑳伝える技術 KP 法(紙芝居プレゼンテーション法)
- 【早朝 WS】
 - ①アイソン彗星いつ観るか…清里、澄んだ空…今でしょ！
 - ②ロシアからの旅人に会おう
 - ③清里トレラン
- 【特別企画】
 - ・アクアマリンふくしま移動水族館
- 【自主企画】
 - ・プレゼンテーションで世界を変える！～TEDの世界～
 - ・野外フェスは環境教育のツールになりえるか！？
 - ・スマホ、テレビゲームの年齢制限でも考えてみよう
 - ・JEEF 理事バンド(バンド演奏)
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2014(通算 28 回)】

- テーマ：「ESDの10年後の環境教育」
- 日時：2014年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：186人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
 - ・キーンノートスピーチ
 - ・基調報告 テーマ【ESD ユネスコ世界会議を終えて】
 - ・ワールドカフェ方式ディスカッション【私とESD】
- 【ワークショップ】
 - ①自然の中で遊ぶゲーム
 - ②再び、地域に根ざした環境教育(PBE)について
 - ③企業のESDのあり姿/あるべき姿を考えよう
 - ④「協働」による里山再生の取り組み～〇〇×〇〇～
 - ⑤エネルギー大臣になろう～ゲームで考える環境教育～
 - ⑥ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術
 - ⑦楽器を使ってプレゼンテーションしよう
 - ⑧語ろう！考えよう！「企業のESD宣言」
 - ⑨電子絵本を活用したESDプログラムを考える
 - ⑩国連の新目標(SDGs)は環境教育普及につながる？
 - ⑪体感、出航！宇宙船地球丸「苦手は天文」ぶっ飛ばせ
 - ⑫“自然学校と林業”環境教育は暮らし生業に直結せよ！
 - ⑬イノベーション創発型ワークショップのデザインを学ぶ
 - ⑭清泉寮で自然音楽野外フェスティバルをつくる
 - ⑮教育と刃物～ナイフを使う喜びを子どもたちに！
 - ⑯シニア自然大学を作ろう
 - ⑰自己肯定感を育むESD～これからの学びへの提案～
 - ⑱GEMSの新しい使い方～森の中で 図書館の片隅で～
 - ⑲KP法(紙芝居プレゼンテーション法)の工夫共有ワークショップ
 - ⑳小学校で環境教育をやろう！Part II
- 【早朝 WS】
 - ①朝の楽しい修行：ヨガと勤行
 - ②環境教育と持続可能な開発の日米比較研究中間報告②
 - ③エンカウナタグループ「今ここ」
 - ④清里朝散歩
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2015(通算 29 回)】

- テーマ：「地域をつくる環境教育」
- 日時：2015年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：174人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 特別協力：環境省グッドライフアワード
- 全体会
 - ・キーンノートスピーチ「農的生活学校の学び方」
 - ・ワールドカフェ方式ディスカッション「地域をつなぐ環境教育」
 - ・「世代を超えて一緒に〇〇おう！」
- 【ワークショップ】
 - ①広範囲に拡散した外来種の市民による調査と駆除対策
 - ②獣害問題は、環境教育の対象になるのか。
 - ③エネルギー大臣になろう！～ゲームで考える環境教育～
 - ④ご当地GEMS～地域に根ざしたアクティブ・ラーニング～
 - ⑤自然学校の30年を振り返りこれからの20年を考える
 - ⑥環境教育の基礎…自然とは？命とは？
 - ⑦「PBE：地域に根ざした学び」を考える
 - ⑧「若者が地域で生きる・暮らす」を考える3時間
 - ⑨里山ってなんだらう？～その意味、価値を考える～
 - ⑩野生生物と共生する環境地域づくりの進め方
 - ⑪持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方
 - ⑫サステイナブル・ツーリズム国際基準を自然学校に！
 - ⑬体感、出航！宇宙船地球丸。「天文は苦手」吹っ飛ばせ
 - ⑭探そう磨こう！環境教育の魅力伝えるコトバ
 - ⑮野外フェスに環境教育を広げる『NATPC FES』
 - ⑯地域が蘇る“森林資源を循環させる経済”を考える
 - ⑰廃校利用の自然学校の経営
 - ⑱ピギナーのための自然体験型環境教育プログラム
- 【早朝 WS】
 - ①朝の楽しい修行：ヨガと瞑想と歌
 - ②手づくりのもみ殻コンロ、ペール缶めくくどの実演！
 - ③ロシアからの旅人と再会しよう～冬鳥との出会いを求めて～
 - ④清里朝散歩
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2016(通算 30 回)】

- テーマ：「環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？」
- 日時：2016年11月5日(土)～7日(月)
- 参加人数：196人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
 - ・スライドショー「これまでの環境教育をふりかえる」
 - ・パネルディスカッション「日中韓スウェーデンの環境教育比較研究」

・全員参加型ディスカッション

【ワークショップ】

- ①持続可能な社会づくり、企業の役割とは
- ②持続可能な暮らしの日常を体験する「いつもの暮らし」
- ③『エディブル・スクールヤード』をはじめよう！
- ④環境教育業界×私たち、若手の関わり方
- ⑤祝 30 周年☆清里ミーティングにまつわるコピーを作る
- ⑥自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て
- ⑦エネルギー大臣になろうワークショップ
- ⑧清里ミーティング「30+30」
- ⑨森の中でサイエンス～動物たちの生きる知恵
- ⑩「環境」=「地球」を感じてみよう！天文のイロハ for 環境教育
- ⑪CEPA って何の略？地域をつくる湿地教育を考える
- ⑫森が薫る薫製づくり
- ⑬一流を学ぶ・・・第一印象と名刺交換
- ⑭「水の足跡」- スペース・ワークスを使ってー
- ⑮環境・CSR 活動評価チェックリストを使ってみよう
- ⑯海の森からの贈り物～海藻おしぼり～
- ⑰告知・広報に活かす”伝わる”、”伝える”文章講座
- ⑱環境教育と家族
- ⑲アクティビティを再生する
- ⑳野外での事故に備えよう！「野外・災害救急法」の体験
- ㉑いま「公害教育」を考える
- ㉒「いつもの暮らし」を環境教育プログラムに！
- ㉓「自然から学ぶ場と人の全国フォーラム」中間検討会
- ㉔SDGs でつなげる地域と活動ワークショップ
- ㉕銀粘土で作る リーフモチーフの純銀アクセサリ
- ㉖幻想は捨てよう！NPO と行政のミゾを埋める 80 分
- ㉗火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり
- ㉘マジックで環境教育に活用する
- ㉙あげよう！特定外来生物駆除活動の輪！
- ㉚持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方 2

【早朝ワークショップ】

- ①ヨーガと瞑想
- ②甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
- ③冬鳥と出会い、地球を感じよう
- ④清里朝散歩

■10 分プレゼンテーション

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2017(通算 31 回)】

- テーマ：「組織・活動を変革する 17 の視点 ～SDGs でつくる私のアクション～」
- 日時：2017 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：137 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、日本環境教育学会、持続可能な開発のための教育推進会議

■全体会

- ・パネルディスカッション「SDGs に向けて教育は何ができるか」
- ・自分×SDGs で次のアクションを考える
- ・全員参加型ディスカッション～SDGs でつくる私のアクション～

■ワークショップ

【対話型ワークショップ】

- ①フライング・ワイルドの体験と SDGs との繋がり
- ②SDGs ×わたし
- ③協同学習の手法で環境教育をスキルアップしよう！
- ④環境思想を考える
- ⑤生きものの魅力で心を動かしたい
- ⑥森林療法×環境教育～癒しが持つ SDGs への可能性
- ⑦つなげよう！自然体験型エコツアーズと SDGs
- ⑧CSR プログラム事例で学ぶ社会的インパクト評価
- ⑨パートナーシップでつくる「キョソト」SDGs 企画
- ⑩環境教育研究&実践から考える SDGs

【体験型 (E)・フレッシュパーソンズ (F) ワークショップ】

- ⑪持続可能な「ミライ」をつくる人材育成の在り方：F
- ⑫森林療法～調和する自己の持続可能性：F
- ⑬中止：野外活動を 120%楽しむための図鑑の読み方・使い方：F
- ⑭火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり：E
- ⑮KP 法で SDGs を整理してみよう：E
- ⑯17 の SDGs で柔軟な頭を作るゲームを：E
- ⑰アナログゲームで環境を学ぼう！：E
- ⑱「教える」より「学びあう場」を創ろう！：E
- ⑲中止：自然を使った深く自分と繋がる体験ワークショップ：F
- ⑳「うんこ」から自然を見る～教材化の面白さと可能性：F
- ㉑中止：環境ポータルサイト「BLUESHIP」の活用方法：F
- ㉒自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て：E
- ㉓既存のプログラムを SDGs ナイズ大作戦！GEMS 編：E
- ㉔SDGs と森里川海、そしてライフスタイル：E
- ㉕目からウロコ、環境教育のためのミニマム天文基礎講座：E
- ㉖公害と SDGs JEEF・あおぞら財団の協働 FW：E
- ㉗一体感を生み出す魔法の技術！アイズブレイク三連発♪：E
- ㉘音楽フェス×環境教育@清里 超実践体験ワークショップ

【早朝ワークショップ】

- ①森林療法プログラム体験～樹林気功とグラウンディング
- ②ヨーガと瞑想
- ③甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
- ④マインドフルな自然体験
- ⑤冬鳥と出会い、地球を感じよう

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2018(通算 32 回)】

- テーマ：「ESD + SDGs ～ 未来を変える教育を考える」
- 日時：2018 年 11 月 16 日(金)～18 日(日)
- 参加人数：146 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs がもたらす共創の可能性
- ・パートナーシップで未来を変える！
- ・アイデアは地球を変える

■ワークショップ

【体験型ワークショップ・1】

- ①SDGs に果たす ESD の役割
- ②自然観察で知る生物多様性、命のあり方、人という生物
- ③学生版清里ミーティング実施に向けた作戦会議
- ④棚田米を土鍋で炊いて、味わい、お米の魅力を深める
- ⑤JOLA ～アウトドアで「未来のための人づくり」～

【対話型ワークショップ】

- ⑥SDGs for School 未来の教育デザイン
- ⑦エコヴィレッジ、災害に強いオフグリッドの居場所作り
- ⑧研修「設計」のススメ
- ⑨公害の経験から考える SDG s 達成に向けた課題
- ⑩災害支援と自然学校の役割
- ⑪美しい棚田を未来につなぐ 11 年の環境教育の実践
- ⑫ESD による地域創生の可能性
- ⑬エコ・自然塾
- ⑭野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議

【体験型ワークショップ・2】

- ⑮フルスイングの発酵ワークショップ
- ⑯読本「森里川海大好き！」を活かした環境教育へ
- ⑰森カフェ GEMS マタギさんと算数・自然の恵み山御膳
- ⑱歌の力、体感ワークショップ
- ⑲UNCO ゲーム開発のためのβ版体験ワークショップ
- ⑳教員向けエコ×エネ体験ツアーの手応えと可能性
- ㉑森で元気に！キープの「森林療法」ちょこっと体験☆
- ㉒ハラオチ納得！ジオガシキッテン教室
- ㉓「地域を活かした教育力」
- ㉔「九州・沖縄で暮らし続ける！」地域に根ざす SDGs

【早朝ワークショップ】

- ①ロシアからの旅人と再会しよう
- ②ヨーガと瞑想
- ③山珊瑚で根付を作ってみよう
- ④清里朝散歩

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2019(通算 33 回)】

- テーマ：「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」
- 日時：2019 年 11 月 15 日(金)～17 日(日)
- 参加人数：120 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs に捉われすぎいませんか？
- ・Learn (主体的な学び) と Unlearn (学びほぐし)

■ワークショップ

【90 分ワークショップ・1】

- ①社員を全員ファシリテーターに
- ②インタープリテーションをより効果的にする指標作成プロジェクト
- ③地球温暖化を逆転する 100 の方策ドローダウン紹介
- ④全く新しいアイデアで地球を救う本気スーパー脳嵐
- ⑤「静」のプログラムの可能性

【150 分ワークショップ】

- ⑥スマホから考える世界・わたし・SDGs
- ⑦カードゲーム“新”エネルギー大臣になろう！
- ⑧わたしたちの地域、みんなでどうする？～各地の事例から学び合おう！～
- ⑨野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
- ⑩持続可能に海の資源を守るための取り組みを考える
- ⑪身体感覚の気づきから持続可能な社会について考えよう
- ⑫環境教育×中小企業！～パートナーシップで持続可能な事業をめざす～
- ⑬エコロジカル・シンキング カードで発想しよう！
- ⑭自然観察の基本、環境教育の基礎をおさえよう

【90 分ワークショップ・2】

- ⑮見ることに頼りすぎているかもしれない私たちへ。
- ⑯古今東西！環境教育ミーティング！
- ⑰ライブ&ダイアログ：自然の摂理を歌おう！
- ⑱ゲノム編集食品について問い合う
- ⑲林業×チームビルディングの可能性は？

【早朝ワークショップ】

- ①美しい玉虫の甲羅でアクセサリを作ってみよう。
- ②渡り鳥に出会い、季節や自然を感じよう！
- ③清里朝散歩♪
- ④ヨーガと瞑想

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2020(通算 34 回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2020年12月6日(日)~12日(土)
- 参加人数:303人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全大会1「自然遊びで育つ「たくましさ」
 - ・全大会2「世界の環境教育実践から学ぶ」
- ワークショップ
 - 1.インタープリテーション再入門
~インタープリターが伝えるコミュニケーションと探求の極意
 - 2.トヨタ山田とグリーンウッド社が贈る!!
トヨタ白川郷自然学校×校長山田氏×環境教育×学生=素敵な未来?
 - 3.どうなの?どうする?「プラスチックごみ」ワークショップ
 - 4.渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える
 - 5.地域に大学を!~地方創生に向けた教育改革
 - 6.オンラインでもハンズオン!GEMS 入門編
 - 7.大人だって絵本が好き!-SDGS とつなげよう
 - 8.地域のビジター体験を充実させるためのガイド
インタープリターのコンピテンシーとは
 - 9.CSO ラーニング卒業生のイマ
~NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成
 - 10.「複業」を始めてみよう
 - 11.コロナ時代の幕開けを語ろう~自然学校語り部屋
 - 12.伝わるオンラインプレゼンテーション!
~デジタル環境のあたらしいあたりまえ。
 - 13.気候変動をさまざまな角度から見てみよう!
~SDGs・環境教育・地方公共団体の観点から
 - 14.『やまねミュージアム』オンラインツアーに挑戦!
~オンラインにおける展示施設の可能性を考える
 - 15.あつまれ!清里の森の小劇場
おうちからでも、森を楽しみたい人集まれ~!
 - 16.環境教育×NVC-持続可能な未来を創る「対話」のちから
 - 17.グリーンスクール卒業生(日本人女性初)が語る「気候変動」と「環境教育」
 - 18.馬との暮らし・自然の中で育つ、ちょっと気になる子ども達
~感覚統合×自然体験・ホースセラピー
 - 19.「森」×「健康」~リトリートの場としての森の可能性を考える
 - 20. JICA 海外協力隊カフェ~ベリリーズ・ホンジュラス・キルギス編
 - 21.東アジア地球市民村食堂
~食事の風景から探る私たちの自然観と共通性
 - 22.ユースと語ろう!学校×環境教育のこれから
 - 23.自分を満たす暮らしとは?
自分だけのモバイルハウスをデザインしてみよう!
 - 24.SDGs にはこう取組むのがイイね!をみんなで考えよう。
 - 25.地域に根ざした環境への取り組みとは
~インドネシア駐在歴約 20 年の矢田さんをお迎えします
 - 26.美しい棚田を未来につなぐ 14 年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう
 - 27.プラスチックさよなら大作戦~阿部ゼミ生に力を貸してください!!
 - 28.【リレートーク】「読んでほしい」「知ってほしい」環境のこと
 - 29.豊かな森を造る×脱炭素×地域活性化
 - 30.は・ず・む♪アイデア出しミーティング
~3M のチームワークソリューションを学ぼう!
 - 31.「エシカル・ツーリズム」の可能性~観光×「海ごみ」でまちづくり
 - 32.あなたが国の代表に!?なりきり国際環境会議!
 - 33.海や自然と深くつながる。
化石燃料を使わないサステナブルモニターツアー報告
 - 34.コロナ禍から先頭を切った音楽フェス「ハイライフ八ヶ岳」
開催の決断と、その感染抑制の実際を赤裸々に伝え振り返る 90 分
 - 35.ペルー×青年海外協力隊~環境教育隊員の活動ご紹介!
 - 36.内側と外側から自分とつながる Forest タイム
- 10分プレゼンテーション
- その他のプログラム
 - 1.情報交換会
 - 2.理事×リジ×リじ=?
 - 3.長沢裕×辻英之 特別ワークショップ
 - 4.市民のための環境公開講座&特別座談会
 - 5.ブータンの朝 LIVE
 - 6.自然学校 NIGHT
 - 7.ふりかえり会

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2021(通算 35 回)

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時:2021年12月5日(日)~11日(土)
- 参加人数:313人
- 主催事務局:公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 後援:環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、国立青少年教育振興機構、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議、一般社団法人日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会1「2030まであと9年。環境・教育で何に取り組む?」
 - ・全体会2「共に生きる」を改めて考える~これからの生物多様性~
- ワークショップ
 - 1.森好きが育つ場所白神山山~森のすごさと地域の課題と未来~
 - 2.アートの入り口~もっと教育に遊びゴコロを!~
 - 3.どうしたらいいの?「行動変容」実行へつなげるための方法を考えよう
 - 4.ポッドキャスト公開収録!環境教育ラジオ『私の本棚』
 - 5.「保育と自然・環境教育」情報交換会
 - 6.未来の海を絵に描こう!~あなたが願うのはどんな海?~
 - 7.自然学校スタッフの日常のスキルは、被災地支援のコーディネーターに役に立つ

- 8.ミニチュアお節のペーパークラフトで、『敬い』と多様性を考えよう
- 9.古い×SDGs~地球と僕らの未来を占う
- 10.大人だって絵本が好き!~おもしろそう!そうなんだ!を絵本と共に~
- 11.子どもたちに「ライフジャケット」を!~思いはただ1つ...子どもたちの命を守ること~
- 12.いま実現したい「LIFESHIFT」の生き方はたらき方
- 13.地域や社会の課題をSDGsで整理して考えてみよう。
- 14.地域の宝をどう磨く?~「そこならではの価値に光をあてる~インタープリター奮闘中!~
- 15.地球と仲良く暮らすための4つの鍵(KEYS)!?SDGsウォッシュで終わらない環境教育を考えよう~環境教育のオルタナティブ“Earth Education(地球教育)”のモデル・プログラム“EARTHKEEPERS”の試みを通して~
- 16.子ども達が自分の力を発揮できる環境をつくらう!~ヘンテコな世界観のワークショップの事例から~
- 17.自然は自分の中にある~身体の資源、使えますか?~
- 18.八ヶ岳自然ふれあいセンター館内オンラインツアー&ビジターセンター展示・教材情報交換会
- 19.服・ファッションからサステナビリティを考えるワークショップ
- 20.東京港野鳥公園で「渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える」野鳥観察
- 21.野外フェス×環境教育~ハイライフ八ヶ岳の可能性を探る作戦会議~
- 22.ねんどをこねて未来を変える!
- 23.気候変動を自分事化して考えるために
- 24.企業との協業を考えるゆるっとカフェ~企業と環境とサステナビリティと~
- 25.学びの役割再考~社会変容につながる全体地図を考えるキックオフ
- 26.レジ袋の有料化って実際どうなの?あなたの考えを教えてください!
- 27.みちのく自然学校カフェ
- 28.みんなで「つくる」ソーシャルアクションガイドブックの制作と共有~超文化祭より
- 29.デイリー シェアリングネイチャー (自然に気づくネイチャーゲーム)
- 30.虐待、貧困、不登校...様々な困難を抱える子どもたちへ、私たちは何が出来るのか?~「子どもの課題×自然・野外」作戦会議
- 31.全部見せます! 答えます! YouTube チャンネル・You 虫部のトライ&エラー
- 32.自然学校を立ち上げる時のポイントと連携のあり方を考える
- 33.小学生から始める 地球のけんりせんげん~ゴミに命を吹き込もう~
- 34.大変だけれど楽しい本づくり
- 35.自然学校が行う学童保育の紹介
- 36.仕事?家庭?自然学校若手経営者のワークバランスを考える
- 37.教育について考えよう
- 38.CSO ラーニング卒業生のイマ~NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成~
- 39.『飛び出す江戸の町並み図絵』ペーパークラフトで、RRRDR と資源、文化の多様性を考えよう

■10分プレゼンテーション

■その他のプログラム

- 1.情報交換会
- 2.トークショー1「長距離自然歩道を歩こう!」
- 3.トークショー2「捨てない暮らしとレトロイノベーション」
- 4.市民のための環境公開講座
- 5.自然学校ナイト
- 6.自然学校オンラインツアー

清里ミーティング 2022 報告書

発行者：公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階

TEL : 03-5834-2897 FAX : 03-5834-2898

URL : <https://www.jeef.or.jp/>